

けっしょうも 結晶母

発行: テラ・ルネッサンス 発行日: 2008 年1月1日

Terra
Renaissance

Topics

ウガンダ・コンゴ・カンボジア・ラオス...4カ国に事業展開



写真: 07 年09 月に実施したウガンダ事業視察団
参加者と元子ども兵の集合写真(ウガンダにて)

■結晶母目次

P01 理事長挨拶

P02 全国キャラバン報告

各会場の報告/新聞記事紹介

P04 ウガンダ・コンゴ事業報告

P07 カンボジア・ラオス事業報告

スタディツアー報告/ラオス事前調査報告

P11 国内事業報告

新規職員紹介/公式ブログ開設ほか

P12 今後のイベント予定など

付録: 最近の活動掲載記事

質量ともの充実を目指して



2007 年は海外での取り組みが拡大した年でした。ウガンダでは皆様からのご寄付に加え、外務省日本 NGO 支援無償資金を得て、元子ども兵社会復帰プログラムを拡充することができました。あわせて隣国のコンゴ民主共和国においても地元 NGO との連携の下、ウガンダで培ってきたノウハウを活かして、元子ども兵の社会復帰支援を開始いたしました。カンボジアでは従来事業をさらに発展させ、地雷埋設地域での開発事業を開始します。ラオスにおいても不発弾処理支援を開始するための調査を07 年夏に終えています。このような海外事業の拡大を支えてくださっているのは、多くの会員、支援者の皆様です。心から御礼申し上げます。08 年はテラ・ルネッサンスの質量共に拡充し続けますので、よろしくお願い申し上げます。

理事長: 鬼丸昌也

2006年11月に「日本の皆さんに感謝と命の大切さ」を伝えたいと来日したトシャ・マギー（本会ウガンダ事務所職員）。「彼女の人生や考え方に感動した」と、多くの方が喜んでくださいました。2007年も皆様からのご要望もあり、トシャが再来日。青森、沖縄、静岡、愛知と各地で報告会を開催しました。また、今回、トシャが日本語を勉強して、日本の支援者様とのコミュニケーションをもっと図りたいと日本語学校に入学し、2月中旬まで日本語の勉強を続ける予定です。

■11月17日 青森報告会（主催：宗教法人松緑神道大和山様）



来日後、トシャと小川は青森へ移動。青森ではウガンダ事業開始直後からご支援くださっている宗教法人松緑神道大和山様（教主：田澤清喜様）の越年感謝祭にて、活動報告をさせていただきました。松緑神道大和山様では婦人会の皆様が元子ども兵20名のルネッサンスプログラムサポーター（里親）に登録頂いています。各地で空き缶を回収したり、若布を販売するなど、様々な手段で元子ども兵の社会復帰を熱心にサポートくださっています。

■11月23日 沖縄報告会（主催：株式会社沖縄教育出版様）

2007年9月のウガンダ事業視察団に参加くださった株式会社沖縄教育出版様（代表取締役：川畑保夫様）が30周年記念イベントとして活動報告会を開催。開催にあたり琉球新報、沖縄タイムスに報告会の全面広告を掲載、全社員様が朝早くから会場周りの掃除、会場整備など熱心に取り組んでくださいました。当日はトシャ・マギーの活動報告、川畑保夫様（株式会社沖縄教育出版社長）、糸数慶子様（参議院議員）、小川真吾（本会理事）で平和と人材育成についてのパネルディスカッションを行い、その模様が琉球新報、沖縄タイムスなどに掲載されました。



虐殺、過酷な日々を外国人女性語る 沖縄教育出版30周年事業(琉球新報 11月24日夕刊)

障害者の積極的採用や地域清掃などの社会貢献活動で知られる健康食品販売の沖縄教育出版（那覇市、川畑保夫社長）が23日、アフリカ・ウガンダで元少年兵の社会復帰支援事業を行う京都の特定非営利活動法人テラ・ルネッサンスの鬼丸昌也理事長らを招いたシンポジウムを那覇市民会館中ホールで開いた。創立30周年を記念した事業で、市民ら約300人が参加。ブルンジの内戦で家族を虐殺され、現在はウガンダでテラ・ルネッサンス職員として活動するトシャ・マギーさんが講演した。トシャさんは家族を殺され、隣国を1人で転々として生き抜いた過酷な日々を語り「一人一人に世界を変える力があり、できることはたくさんある。アフリカなど各地で起きている紛争は世界中の問題でもある」と呼び掛けた。13歳でウガンダに行き、数々の屈辱や差別に耐えて必死で英語や算数を学んだ日々を「絶望の中、立ち上がらなければいけないと言いつけていた」と振り返り、「夢や希望を次世代に伝えていくことで、難しいこともいつか実現できる日が来る」と強調した。川畑社長は鬼丸氏らと交流があり、9月下旬にウガンダを訪問。

■11月25日 静岡報告会（主催：伊豆太陽ホーム株式会社様）

2007年2月に理事長インタビューのCDを聴いてから不動産仲介手数料の1%を毎月ご寄付下さっている伊豆太陽ホーム株式会社様（代表取締役：小西正徳様）。

小西様は9月のウガンダ事業視察団にも参加され、テラ・ルネッサンスの取り組みを多くの方に伝えたいと活動報告会を開催。下田市を中心に約80名の方が参加することになりました。今まで御縁のなかった静岡県伊豆地方に新たにテラ・ルネッサンスの取り組みが広がっていくことになりました。



■11月26日 愛知報告会（主催：BSC理美容協同組合様）

全国各地で環境や平和の問題に取り組んでいらっしゃる理美容業の組合であるBSC理美容協同組合様が愛知県での活動報告会を開催くださいました。ルネッサンスプログラムサポーターでもあり、理事長の講演などを企画してくださっているアースネットなごや様ご紹介いただき、今回の報告会開催が実現しました。約300名の方が参加し、トシャ・マギーの活動報告や主催者様とのパネルディスカッションに耳を傾けてくださいました。

■11月27日 愛知報告会（主催：株式会社アイケイ様）



グローブハウスⅠ・Ⅱと元子ども兵社会復帰施設の建設をご支援くださっている株式会社アイケイ様（代表取締役：飯田裕様）にて活動報告会を実施しました。昨年に引き続き、2度目の訪問となったトシャ・マギーが改めてウガンダ北部の現状、元子ども兵士たちの社会復帰への挑戦の模様を社員さまへ報告させていただきました。グローブ基金（株式会社アイケイ様の社会貢献基金）のみならず、社員様が自主的にバザーを開催しご支援くださるなど、支援と共感の輪が確実に社内に広がっています。

■11月28日 愛知報告会（主催：宗教法人立正佼成会名古屋西教会様）

以前、立正佼成会沖縄教会長だった山北雅道様が名古屋西教会長に赴任されたことがご縁で、立正佼成会名古屋西教会青年部の皆様との交流が始まりました。

今回は、青年部の学習会に参加させていただき、活動報告の後、アットホームな感じで質疑応答など深い交流を行うことができました。報告会をきっかけにして、書き損じはがきの回収など、青年部を中心とした取り組みが始まります。トシャの平和への願いが確実に広がっているのです。



4月から外務省の補助金を得ることができたウガンダ子ども兵社会復帰事業。この1年はまさに、「拡大と充実」というにふさわしい年となりました。

■ 1期生、続々とビジネス開始

今年、ルネッサンス・プログラム1期生は全員が施設での訓練から、マイクロ・ビジネス支援への移行を果たしました。なかでも、アジョク・ルーシーさんは、炭とピーナッツの小売を中心にビジネスを開始し、借地に商品の保管小屋を建てました。うまく買い付けることができた時には週に1週間で4万Ush(約2700円)くらい

の売り上げで

収益も2000円近くになっています。今後は、現在のビジネスで資本金を蓄え、い



ずれ施設で学んだ洋裁のビジネスを始めたいと意気込んでいます。

アルム・マーガレットさんは、ビジネスの傍ら、近隣住民の苗木ビジネスの手伝いを始めています。種を買ってきて、小さなカップ鉢に数個の松の種を撒き、日陰を作る為の低い屋根を作り、成長させて数ヵ月後に1カップ150Ushで販売できます。写真に写っている場所で2千カップがあります。数ヶ月で2千カップ×150Ush=30万Ush(2万円)

になります。苗木の栽培・販売は、環境保護にも役立つことから需要もあるそうです。

ビジネスの進捗具合には個人差があり、順調に進んでいる人、まだまだ乗り越えなければいけない障害のある人、様々です。しかし、新しい技術を身に付けたりしながら、それぞれが各々のペースで頑張っています。今後が楽しみです。

■ 養鶏ビジネス・プロジェクト・チーム結成！！

2期生のオティム・チャールズが中心となり、養鶏のビジネスをスタートしました。当初は、オティム1人で始めていましたが、他の受益者の手本にもなっていることから、モデル事業化しました。現在、オティムは家の隣に養鶏用の小屋を併設し、そこでヒナを育て、大きくなった鶏を市場で売っています。これからは、施設の一部を養鶏用に改築し、そこでヒナを育て、成長した鶏を市場で販売していきます。最初は2期生の希望者3名ほどでグループを結成し、開始します。彼らには、後に続く元・子ども兵らの指導も担います。



■ 特別授業 ～1期生・ジェームズから2期生・ジャネットへ

ルネッサンス・プログラムでは、現在第1期生が職業訓練期間を終え、第2期生、第3期生は職業訓練の真っ最中中です。そんな中、週に1度、特別授業が開講されています。

玄関マットの販売を通じて、収入向上を目指している盲目の元・子ども兵ジェームズ。彼は、目の不自由な第3期生のアンジー・ジャックリンにマットの作り方、点字の読み書き、英語を教えているのです。

これまで、何度も自殺を考えたり、絶望的な言動を繰り返していたジェームズですが、自分が人の役に立てることにとっても喜びを感じ、生きがいを見つけています。アンジーも普段は物静かですが、ジェームズの熱い授業を熱心に受け、時々笑顔を見せるようになりました。



■ 近隣住民を巻き込んだ「和解ワークショップ」開催

今年は地域住民を巻き込んだ「和解のためのワークショップ」を計4回にわたり開催しました。半日のワークショップで、若い、信頼構築をテーマにした寸劇等を通して、和解、平和の重要性を学ぶものです。少しでも多くの人に参加してほしいとの願いから、参加者には、テラルネTシャツを配布しています。

参加者は、近隣住民、建設作業員（元兵士、住民）、受益者、スタッフで、総勢で500名以上にも上りました。

ウガンダ北部に平和を根付かせるためには、より多くの地域住民を巻き込んだ活動がとても大切です。この地で活動するNGOとして、地域住民の方々にこうした機会を提供することもテラ・ルネッサンスの大きな役割であると感じています。



■ 小型武器行動週間

当会は、国際小型武器行動ネットワーク(IANSA)の一員です。過去に、支援者の皆様方にもミリオン・フェイスの顔署名にご参加いただいた方は記憶に新しいかもしれません。そのIANSAが今年6月の1週間を小型武器行動週間とし、世界各地で小型武器被害の現状や違法な小型武器取引規制を訴えるイベントを行いました。当会もウガンダのUANSAとともに、ラジオトークやセミナー等複数のイベントを実施しました。当会は、政府、市民社会が武器貿易条約(ATT)の締結に向けた取り組みを推進するためのセミナーや国内行動計画について議論する機械を提供しました。為のセミナー、国内行動計画についての話し合う場としての機会を提供しました。また、当会と国連開発計画(UNDP)とセイファール・ワールドの3組織で小型武器行動週間における一連のイベントをサポートしました。

当会では、この小型武器行動週間の他にも、毎年的小型武器破壊式典や国際平和の日にもイベントやパレードを精力的に行い、ウガンダ北部から世界へ平和の願いを発信しています。

■ テラ・ルネッサンス施設全4棟完成！！

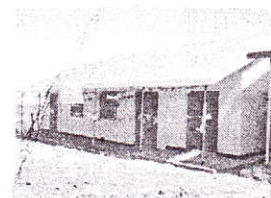
宗教法人 松緑神道大和山様による「スマイル・ハウス」建設から1年、今年9月、「グローブ・ハウス」(株式会社 アイケイ様)、「クラージュ・ハウス」(情報企業家 鍵谷健様)「木工大工・服飾デザイン棟」(外務省 NGO 無償支援)の全棟が無事完成しました。この4棟が完成したことにより、多くの元・子ども兵を受け入れることが可能となった上、これまでの授業に加えて、保健衛生、伝統ダンス・ドラマ、(木工大工)など、新しい授業も開講しています。今後も元・子ども兵の訓練施設、地域移住民との交流スペース等、テラ・ルネッサンスの活動だけでなく、ウガンダ北部地域の平和のための活動がこの施設から発信されることを願っています。ご支援いただいた皆様方、本当にありがとうございました。



スマイル・ハウス



グローブ・ハウス



クラージュ・ハウス



外務省・ハウス(仮名)

■ ウガンダ・プロジェクト視察ツアー

今年も3月と9月にウガンダ・プロジェクト視察ツアーを行いました。この視察ツアーは、日頃よりルネッサンス・プログラム（ウガンダ事業）をはじめ、当会をご支援していただいている皆様に、子ども兵や小型武器の問題を五感で体験していただくことを目的としています。2月には、9月は株式会社沖縄教育出版様、伊豆太陽ホームズ様、情報企業家 鍵谷健様をはじめ、5名の方にご参加いただきました。ツアーでは、ウガンダ北部・グルの当会施設を訪れ、元・子ども兵の創作劇を鑑賞したり、企業家の方々からビジネスや人生経験などいろいろな話をシェアしていただきました。また、その他にも元・子ども兵保護施設 GUSCO (Gulu Support Children Organization)、IDP (Internal Displaced Person : 国内避難民) キャンプへの視察を行いました。

■ ランド・クルーザー購入

（特活）ネットワーク地球村様よりいただいたご支援（150万円）で、ランド・クルーザーを購入しました。この車は、当会の社会復帰支援施設に通う元・子ども兵の送迎車として使用されます。ウガンダ北部では20年以上続く紛争により2万人以上の子どもたちが兵士として戦わされ、多数の少年たちが戦闘で障害を負い、少女たちたちは大人兵士からのレイプや強制結婚により産まれた子どもを連れて村に帰還しています。（特活）テラ・ルネッサンスでは、このような元子ども兵の社会復帰を支援する為、現在77名の元子ども兵へのカウンセリング、食料・医療支援及び自立の為の職業訓練などを行っています。ウガンダ北部は、主要道路以外は道がきっちり整備されていない上、また、多くの元・子ども兵が送迎なしでは、施設に通うことができない状況にあります。そのため、ランド・クルーザーのような4輪駆動車は大変重宝します。このご支援により、障害を負った元・少年兵、郊外の国内避難民キャンプに帰還している元・子ども兵へ支援活動を広げることが可能となりました。このご支援は過去の絶望を乗り越えて、未来を変えていこうとする元・子ども兵らにとってかけがえのない贈り物となりました。

■ コンゴ民主共和国における紛争被害女性のための支援開始

テラ・ルネッサンスでは、8月よりコンゴ民主共和国の現地 NGO GRAM への資金提供を通じて、行うことになりました。GRAM はコンゴ民主共和国において、①元・子ども兵に対する技術訓練の提供を通じた社会復帰支援、②紛争の被害に遭った女性、子どもの人権保護、③子どもの学費支援、④子ども兵の動員解除、武装解除のための活動を行っている現地 NGO です。テラ・ルネッサンスでは、同国での2度に渡る現地調査を実施し、GRAM への資金提供を通じ、紛争の被害に遭った女性の社会復帰と自立のための支援を開始することを決定しました。事業は2007年8月から翌年4月までの8ヶ月間。紛争下での



GRAMのスタッフと鬼丸理事

レイプ被害に遭った女性170名に対して、社会経済面および健康衛生面の支援、並びに社会職業教育と学校教育を通じての社会復帰支援が対象。

これまでの資金援助を通じて、職業訓練施設の修復と簡易訓練所（センター）の建て直しをすることができました。このセンターは元子ども兵、ゲリラ軍により性的虐待（レイプ）や暴力を受けてきた女性を支援対象とし、小規模ビジネスの指導やカウンセリング、ワークショップなど目的に使用されます。

地雷撤去の終わった村で実施してきた村落開発支援プロジェクトも9月で終わりました。このプロジェクトは、来年実施予定の“地雷被害者ゼロ”の早期達成を目指して取り組む地雷撤去支援と地雷原周辺での村落開発支援の統合プロジェクトのパイロットとしての位置づけのものでした。場所は、バタンバン州バナン地域。内戦中は激戦地の1つでした。ドーン村とチャンホー・スヴァイ村。『どちらの村も90年代後半に地雷撤去が行われるまでは、雨水をためる水がめのすぐ横に地雷が見えていた・・・』と、当時地雷撤去団体に働いていた現地スタッフのクン・チャイは話していました。貧困層を対象とした2つの村でのテラ・ルネッサンスの新たな挑戦を報告いたします。

■プロジェクトの概要と報告<2つの村での村落開発支援>

●フェーズ1 2006年10月—2007年3月

- ・最貧困層の20家族に少額の資金を6ヶ月間提供
- ・少額資金を元手に小規模ビジネスを始めるためのプランをスタッフと一緒に立案し、実行
- ・6ヵ月後に自立できるようにサポート

●フェーズ2 2007年4月—9月

村ごとに貧困層を中心とした住民組織を設立し、村人たちが持続的に運営できる次のシステムを構築。

<マイクロクレジット>・・・無担保、低利子による少額融資により住民の収入向上を目指す。

<貯蓄制度>・・・毎月少額資金を住民組織のメンバーから回収し、メンバーの健康保険として提供する。

<奨学制度>・・・貧困のための学校へ行けない子どもたちに制服、文房具を提供する。

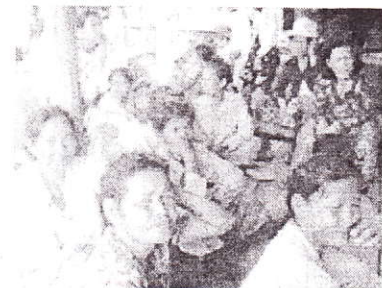
<ワークショップの開催>・・・エイズ、マラリア、デング熱などの感染症の予防、地雷回避教育
民主主義・人権についての理解促進のためのワークショップを開催する。

<月例ミーティングの開催>・・・それぞれのシステムを運営するために村人自身が話し合い、決定する。

<ドーン村> の報告

～設立したシステムを住民たちのために、住民たち自身の手で変更！！～

この村では、子どもたちは全て学校へ通っており、奨学制度以外のシステムを設立しました。マイクロクレジットでは、まだ作物の収穫は終わっていませんが、数家族を除いて、今年は作物が良く育ったため、収入が向上し、住民組織への返金もできるだろうと推測しています。状況の良くない数家族の原因は、家族の健康が思わしくなく、病気の治療などに資金を使わなければならなかったという場合があります。そういった家族のために貯蓄制度を設立したのですが、当初重病や重傷のメンバーにのみ、この資金を提供すると決めていたために、住民組織は軽い風邪のような症状の場合には保険を適用していませんでした。家族の健康面による生活状況の悪化を防ぐために設立した制度でしたので、住民組織のなかで話し合い、風邪のような軽い症状の場合にも資金を提供するように変更しました。これによって家族5人が風邪に罹り、治療費を払わなければならなかったケースも住民組織からの保険の適用により、生活の悪化を食い止めることができると考えています。

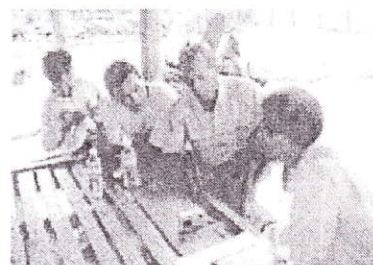


ミーティング中の村人たち

＜チャンホー・スヴァイ村＞ の報告
自然環境に配慮したバイオ・エネルギーによる発展の可能性を探る

この村の住民組織では、ドーン村とは違い、村長と副村長が協力的で、住民組織でもリーダーは副村長、副リーダーを村長が務めています。バイオ・エネルギーとなるジャトロファという作物がこの村でも自生しており、種から搾り取ったバイオディーゼルでエンジンを動かし、発電することも可能です。ジャトロファは自然環境にもやさしいだけでなく、食用にならないために、食料としての競合もなく、また絞りがすは有機肥料となり、さらにはナチュラル石鹸も作ることができ、女性や障害者の仕事として役立てることもできると期待しています。

この村ではリーダーたちを中心にこのジャトロファのプロジェクトをする話し合いを重ねている所です。ドーン村とともに、この村にもフォローアップとして、バイオディーゼルを作る機械を提供しようと考えています。



テラ・ルネッサンスのスタッフと話し合う住民組織のリーダーたち

■ 自主的に始めた奨学制度 17 人の子ども達が学校へ

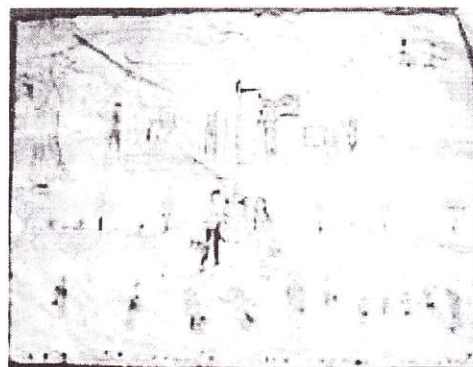


チャンホー・スヴァイ村には、貧困により 17 人の学校へ通えていない子ども達がいました。その子どもたちに、この村の住民組織では奨学制度を設立し、住民組織のメンバーから少額の資金を集めて、制服や文房具を買い、提供する事で学校へ通えるように支援を始めました。この奨学制度により 2007 年 10 月から始まる新学期に合わせて、17 名の子ども達（写真左）が学校へ通えるようになりました。住民組織のリーダーたちが中心となって、自主的に作られたこのシステムには、メンバーから集めたお金だけでは足りなかった部分に

関しては、テラ・ルネッサンスから補足の 100 ドルを提供し、このシステムをサポートしました。

問題を自分たちで解決しようと村人たちが自分たちで話し合っ、設立してくれたことは、とても嬉しいことでした。

上の写真も住民組織のリーダーたちが、自分たちでこの奨学制度の設立記念に撮って、テラ・ルネッサンスのスタッフに渡してくれたものです。そして子どもたちには、将来の夢を絵に描いてもらいました。トゥン・チャニィ（7 歳、女の子）ちゃんは、学校、人々、花などを描いてくれました（写真右）。そして将来は学校の先生になるのが夢だと話してくれました。学校では、カンボジア語と数学を勉強したいそうです。

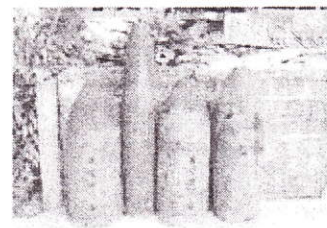


そして 20 年後のチャンホー・スヴァイ村は電気や道路が整備されて、とても発展した村になることを望んでいると力強く希望を語ってくれました。

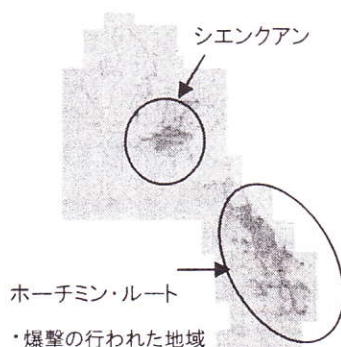
カンボジア事業主担当の江角が今後のプロジェクトを拡大するために2007年4月と9月下旬から10月上旬にかけてラオスでの不発弾調査を2度行いました。近年のクラスター爆弾の禁止に向けた国際社会での盛り上がりもあり、テラ・ルネッサンスも現地での不発弾撤去の支援とともにJCBL（日本地雷廃絶キャンペーン）の一員として、日本でもクラスター爆弾の全面禁止に向けたキャンペーンを実施していく予定にしています。今回は、その調査の一部をご報告いたします。

■爆弾で飾られた街 ポーンサワン

ラオスの首都ビエンチャンからバスで10時間。シエンクアン州の州都ポーンサワンの街に着きました。この街は一見静かな、小さな街ですが、街を少し歩くと異様な光景を目にします。ゲストハウスの前や中、レストランの壁には、たくさんの爆弾を見ることができます。ベトナム戦争中にタイの米軍基地から飛び立った飛行機が北ベトナムを空爆しましたが、落としそこな



ゲストハウスの中に飾られた爆弾

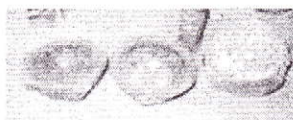


った爆弾は、そのまま積んだ状態で着陸することは、かなりの危険が伴うために帰り道のラオスに落としていったものだと元自衛官の方から聞きました。またラオス中部から南部、カンボジアにかけての爆撃は、北ベトナム軍の補給ルートであったホーチミンルートを狙って、米軍が落としていったものです。30年以上も前に落とされた爆弾で今でも多くの人々が不発弾の被害にあっています。爆撃が終わってから30年以上が経過しましたが、その間に13,000人以上の犠牲者が出ており、その約半分は子どもたちだと推測されています。2005年には、154人（死亡26人、負傷128人）、そして2006年も49人（死亡16人、負傷33人）が被害に遭っています。こうした統計をとるシステムがまだ未整備なため、正確な数はさらに増えると考えられています。

います。

■ボンビーズ クラスター爆弾の脅威・・・MAG 不発弾撤去チームの活動取材

現在『第二の地雷』として多くの不発弾が戦後にも残り、無実の一般市民を傷つけるクラスター爆弾（集束爆弾）の規制を設けるために国際会議が開かれています。このクラスター爆弾が今までで一番多く使われたと言われているのがこのラオスなのです。ラオスやカンボジアでは20.1%のクラスター爆弾（5920万個—イラクでの総使用量以上）が集落から1キロ以内で使用されました。単独の部隊を点で狙うものではなく、面で攻撃するものであるクラスター爆弾の使用は、市民の被害を多く生む結果となることは明白です。ラオスの人々はこの親爆弾からばら撒かれる数十～数百個の子爆弾のことを『ボンビー』と呼んでいます。この不発弾撤去を実施しているイギリスの団体MAGの不



ボンビー BLU-26(米国製)

発弾撤去チームの撤去現場を視察しました。場所は、ラオス最大のミステリーといわれ

る巨大石壺が転がるジャール平原サイト3の近くです。



■新規職員紹介/細谷紀子さん

2007年9月から職員として細谷紀子（ほそたに・のりこ）さんを採用しました。
主に会計・総務を担当しています。

■細谷紀子からのメッセージ

小さい頃から、先進国の物質的な豊かさと、発展途上国の貧しさに疑問を抱いていました。

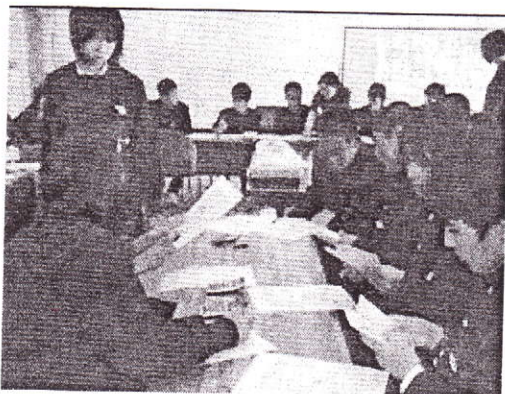
国際支援や海外協力青年隊に憧れるも、学生時代はその機会に恵まれず、ずっと、何かの形で支援をしたいと思っていました。大阪市立大学文学部人間関係学科教育学専攻卒業後、一般企業にて約12年勤務。主に総務・人事・経理の業務に携わってきました。今年4月にテラ・ルネッサンスの存在を知り、5月に生まれて初めて寄付をしました（正直、清水の舞台から飛び降りた気分でした）。6月に、事務所に見学に行き、人員募集のお話を聞き、応募しました。採用が決まった時は、学生時代からの宿題をやっと果たせたような、すごく嬉しい気持ちでした。

長い社会人経験を活かし、テラ・ルネッサンスの事務的な基盤をしっかりしたものになりたいと強く念じています。これからも末永く、よろしくお願い申し上げます。

■テラ・ルネッサンス公式ブログを開設しました

テラ・ルネッサンス事務局では毎日、支援物資が届いたり、お客様が訪問されたり、様々な出来事が起きます。日々の動きをリアルタイムにお知らせするために「テラ・ルネッサンス公式ブログ」を開設いたしました。スタッフ・インターンが毎日更新しています。「テラ・ルネッサンスがどんなことをしているのか、よく分かる」と皆様にも好評いただき、アクセス数も伸びてきています。ぜひ、一度ご覧くださいませ。公式ブログURL <http://blogterra-r.net/>

■初めて修学旅行生の研修を受け入れました/出雲市立浜山中学校様



以前、理事長が講演をしたことがきっかけで、出雲市立浜山中学校の修学旅行の訪問先選ばれました。

修学旅行では学習テーマごとにグループに別れ、テラ・ルネッサンスにやってきたのは「異文化・平和コース」の約40名。事務局近くの京エコロジーセンターというところでワークショップをおこないました。午前中はカンボジアへのバーチャルスタディツアーなどを実施。映像をみながらカンボジアに行ったつもりになってカンボジアや地雷被害の現状を知ってもらいました。

そして、午後からはボランティア体験として、テラ・ルネッサンスで集めている書き損じハガキの分類・集計などの作業を手伝ってもらいました。なかなか根気のいる仕事なのですが、皆さんの真剣な姿がとても印象的でした。皆さんが集計してくれたハガキの総数は7000枚、金額にしておよそ30万円。浜山中学校の皆さん、おつかれさまでした。そして、ハガキを送ってくださった皆様、ご協力ありがとうございました。テラ・ルネッサンスではこれからもハガキを集めていきます（同封チラシをご参照ください）。どうぞご協力のほどよろしくお願いいたします。

■01月～02月の予定(一部) ★は一般参加可のイベントです

- ☆01月10日(木) 講義: 日本外国語専門学校(東京)
- ☆01月11日(金) 講演: 米子市立河崎小学校(鳥取)
- ☆01月17日(木) 講演: 社団法人伊東青年会議所(静岡)
- ☆01月19日(土) 講演: 株式会社大和コンピューター(大阪)
- ☆01月24日(木) 講義: 日本外国語専門学校(東京)
- ☆01月25日(金) 講義: 日本外国語専門学校(東京)
- ☆01月26日(土) 講演: 明るい社会づくり運動(宮崎)

☆02月03日(土)～04日(日)

出展: ワンワールドフェスティバル(大阪)

毎年恒例のワンワールドフェスティバルへの出展。今年は食事ブースにも出展し、カンボジア料理をお出しします。ぜひご参加ください。 URL <http://www.interpeople.or.jp/owf.html>

- ☆02月14日(木) 講義: 日本外国語専門学校(東京)
- ☆02月16日(土) 講演: 有限会社教育考学(京都)
- ☆02月21日(木) 講演: 京都自動車青年会議所(京都)

講演先募集中

07年は140回もの講演をおこないました。

事実を知り、行動を起こすきっかけとして、講演活動には08年も力を入れてまいります。

講演会開催を希望される方は、お気軽にテラ・ルネッサンス(TEL: 075-645-1802)までお電話ください。

一緒にテラ・ルネッサンスを造っていきませんか(会員募集)

テラ・ルネッサンスは世界平和の実現を目指す市民団体です。テラ・ルネッサンスの趣旨に賛同される方は、ぜひメンバー登録をお願い致します。

【会員特典】・会報誌「結晶母」等の贈呈・テラ・ルネッサンス主催のイベントへの優待 など
【会員種別】

正会員	●正会員	30,000円/年
賛助会員	●個人会員	3,000円/年
	●ジュニア会員(18歳まで)	1,000円/年
	●団体会員	50,000円/年
ファンクラブ会員	●理念に賛同し、月単位で継続支援される方	1,000円/月

郵便振替 00950-7-133760

加入者名 テラ・ルネッサンス基金

【編集後記】(事務局: 森本のり子)

結晶母の発行が大幅に遅れてしまい、会員様から、「結晶母はまだ?」のお声を何度もいただきました。

今年度は事業の拡充を優先し、国内での業務が後手に回ってしまいましたが、来年こそ国内業務に力を心底入れていきたいと思っています!

【編集・発行】

特定非営利活動法人 テラ・ルネッサンス
612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町5-23-105
tel/fax: 075-645-1802 e-mail: contact@terra-r.jp
URL <http://www.terra-r.jp>



本誌はリサイクルや地球環境に配慮した大豆油インクを使用しています